

武田高等学校

香港・マカオへの修学旅行3年目

異文化体験や現地学生との交流で 語学力や教養、マナーを学ぶ

1967年創立の武田中学校・高等学校は、2017年に50周年を迎えた歴史ある中高一貫教育校。教育理念として掲げる“国際人の育成”に沿い、さまざまな国際交流の機会を設けており、高校2年生の12月に実施する修学旅行も7年前から海外での研修を実施している。香港・マカオで行われた2018年の修学旅行の様子を聞いた。

BBSプログラムで現地学生と交流

武田高校では、修学旅行の行き先を香港・マカオにして3年になる。マカオを入れているのは、街なかに世界遺産があり、東西の文化が交わる独特の歴史がある場所だからだ。

同校では、世界遺産エリアの散策にBBS (Big Brother & Sister) プログラムを採用している。これは、マカオの大学で学ぶ学生1名に対し、生徒5人で1つの班を形成して活動するもの。「学校訪問だと個別のコミュニケーションが取りにくいので、小グループなら同年代の現地学生と積極的に交流をもつことができます」と話すのは学年主任の青木宏真先生だ。街を案内してもらいながら一緒に昼食をとることで、わずか数時間でも内容の濃い研修になるという。生徒からも「積極的に交流できた」、「語学力の無さを痛感した」、「中国語も理解できるようになりたい」といった声が聞かれ、彼らにとって刺激的な時間になっている。

歴史や異文化をたっぷり味わう1日

午前中は班別でマカオ半島のバラ岬に立つ媽閣廟やマカオ歴史市街地区など歴史的スポットを巡ったが、午後は一転近代マカオを目の当たりにするスケジュールだ。2001年にオープンしたマカオタワーはマカオのシンボルの一つ。高さ338mの高層タワーには58階に展望台があり、360度開けたパノラマから力強く発展するマカオの今を感じることができる。



現地の学生街を散策。会話は英語だ

夕食はレストラン「ダンボ」でマカオポルトガル料理。初めての味に戸惑う生徒もいたが、美食の街マカオの食文化に触れる貴重な機会となった。食後はIR(統合型リゾート)が林立するコタイ地区で「ザ・ハウス・オブ・ダンシング・ウォーター」の観劇が組まれている。高額なショーをスケジュールに入れる学校は珍しいが、「レベルの高い外国の文化に触れることで、教養やマナーを身に着ける効果も期待できます」と青木先生は語っている。



媽閣廟の前でクラスごとに集合写真を撮影

事前学習と旅行後のポートフォリオにも奮闘

修学旅行の事前学習はタブレットを使って行われている。班別の調べ学習はテーマに沿ってグループごとに行い、修学旅行に行く前にクラス全員で共有した。帰国後も、事前に学習したことと実際に見聞きしたことを照らし合わせ、写真や感想をまとめるポートフォリオを作成。こうした制作体験はいずれ大学受験や就職など、近い将来に役立つことも視野に入れているという。

また、同校が修学旅行先を海外にしているのは、国際線に乗ったり、税関を通ったりといった海外旅行体験や外国での異文化体験に価値を置いているからだ。その意味でもマカオを行き先にしての意義は大きい。同行した青木先生も「コンパクトな中に世界遺産をはじめとした見どころが詰まっているのがマカオの魅力」としている。

生徒たちの感想もさまざまだ。「外国人と英語で話す貴重な機会になった」、「自分たちの住む町とはスケール感が違い圧倒された」というものから、「路地に日本車が多く停まっていた親近感を覚えた」という声まであった。

〈DATA〉

期 間：2018年12月9～13日 (4泊5日)

人 数：2年生147名+教員8名

行き先：香港・マカオ

マカオ宿泊先：クラウンプラザホテル

〈スケジュール〉

- 1日目 広島から香港へ移動
香港ホテル泊
- 2日目 ホテルを出発後
ターボジェットでマカオへ
11:30 マカオ到着
11:30 マカオの現地学生と班別研修
世界遺産周辺を散策&昼食
15:30 セナド広場集合後、観光
マカオタワー見学
17:45 マカオポルトガル料理の夕食
19:30 演劇観賞
「ザ・ハウス・オブ・ダンシング・ウォーター」
22:00 ホテルへ
「クラウンプラザホテル」泊
- 3日目 ターボジェットで香港へ
終日香港観光
香港ホテル泊
- 4日目 終日香港観光
香港ホテル泊
- 5日目 香港から広島へ帰国の途



班別研修。2つのグループで記念撮影